

みんなでやらいや！

(第5回)

～まちづくり活動報告～

第2回大山町未来づくり交流会開催

4月28日(土)、保健福祉センターなわで「第2回大山町未来づくり交流会」を開催しました。この交流会は、本町でまちづくりに取り組むさまざまな団体・グループが集まり、お互いの情報共有や連携・協力の呼びかけを行う「交流の場」として開催したものです。今回は、講演、まちづくり活動団体報告、テーマ別意見交換会を行いました。

講演



広島県福山市で、古民家の保全・活用・再生活動を通じてまちづくりを実践されている藤原俊彦さんにお話をいただきました。

藤原さんのまちづくり活動は、故郷の内海町が「好きで好きでたまらない」という想いが原動力。『まずは、自分でやる』という姿勢が重要であり、活動開始時は、たった1人でのスタートだったそうです。

現在、NPOを運営されている藤原さんですが、「補助金頼みの組織は長続きしない。利益は出さなくていいが、運営費は自分たちで稼ぐ」を基本として活動されています。

「今の日本をつくったおじいちゃん、おばあちゃんを大切に作るまちづくりをしてほしい」。また、「高齢者も一方的に支えられるのではないけない。内海町では85歳までは働く、

90歳までは自分のことは自分でやる」を合言葉にしてがんばっていると熱く話されました。

テーマ別意見交換会

まちづくりの重要テーマについて、鳥取県庁の担当課長(2名)にも参加していただき、意見交換を行いました。

(テーマ① 地域の人材、資源を見つめ直す)

鳥取県鳥取力創造課長の岩崎林太郎さんから、住民自らが地域の資源を見つめ直し、多様な主体が協働・連携して人材、地域資源をネットワーク化し、地域ならではの強みを確立するという「鳥取力創造運動」について、県内各地の豊富な事例も交えて紹介いただきました。また、岩崎さんからは「一人ひとりの幸せにつながる活動を大山町でも進めてほしい。そのための支援制度である『鳥取力創造運動支援補助金』は申請手続きも簡易なものであり、ぜひとも積極的に活用してほしい。役場職員も住民の一人として積極的にまちづくりに参加してほしい」と話されました。

(テーマ② 地域での支え愛)

鳥取県長寿社会課長の日野力さんから、高齢者が自ら望む地域に居住し、なるべく介護や医療にからず生活できるような地域住民

手作りの支え愛の取組の重要性について、豊富なデータを用いて紹介いただきました。

そして、高齢者が一方的に支えられる側から「支え手」「担い手」になるための健康づくりや介護予防が重要であることや、高齢者が地域に住み続けたい理由は「人間関係が良好だから」という理由が多いが、行政、介護事業者はサービスは提供できても「人間関係」までは提供できず、地域での交流の取り組みが重要だと説明されました。また、県の支援制度なども活用し、地域住民が気軽に交流できる「居場所づくり」を大山町でも積極的に取り組んでほしいと話されました。

意見交換

参加者も含めた意見交換では、「まちづくり団体間の交流をこの場限りのものでなく、ネットワーク化する仕組みが必要」、「若者の参加が必要」といった意見が出されました。

問い合わせ

交流会に参加されたまちづくり活動団体の活動を知りたい方、連絡をとりたい方、また、文中の「鳥取力創造運動支援補助金制度」の質問等については、企画情報課未来づくり戦略室までお気軽にお問い合わせください。

◆問い合わせ先

企画情報課未来づくり戦略室

☎ 0859・54・5202